

1 精製ヒアルロン酸ナトリウム

2 基原、粘度及び平均分子量の項を次のように改める。

3 本品はニワトリのトサカ又は微生物より得られるD-グル
4 クロン酸及びN-アセチル-D-グルコサミンの二糖単位か
5 らなるグリコサミノグリカンのナトリウム塩である。

6 本品は定量するとき、換算した乾燥物に対し、ヒアルロン
7 酸ナトリウム(C₁₄H₂₀NNaO₁₁)_n 90.0～105.5%を含む。

8 本品は平均分子量として50万～149万又は150万～390万
9 のヒアルロン酸のナトリウム塩からなる。

10 本品は平均分子量を表示する。

11 **粘度** (2.53) 本品を0.2 mol/L塩化ナトリウム試液100 mLに
12 溶かした液の流下時間が0.2 mol/L塩化ナトリウム試液の流
13 下時間の2.0～2.4倍となる量を精密に量り、0.2 mol/L塩化
14 ナトリウム試液に溶かして正確に100 mLとし、試料溶液(1)
15 とする。試料溶液(1)16 mL、12 mL及び8 mLずつを正確に
16 量り、それぞれに0.2 mol/L塩化ナトリウム試液を加えて正
17 確に20 mLとし、試料溶液(2)、試料溶液(3)及び試料溶液(4)
18 とする。試料溶液(1)、試料溶液(2)、試料溶液(3)及び試料溶
19 液(4)につき、0.2 mol/L塩化ナトリウム試液の流下時間が
20 200～300秒のウベローデ型粘度計を用いて30±0.1℃で第1
21 法により試験を行うとき、乾燥物に換算した極限粘度は、
22 10.0～24.9 dL/g又は25.0～55.0 dL/gである。

23 平均分子量

24 (i) 表示平均分子量50万～149万の場合

25 本品の平均分子量を次式により求めるとき、50万～149万
26 である。ただし、 $[\eta]$ は、粘度の項の極限粘度を用いる。

$$27 \text{ 平均分子量} = \left(\frac{[\eta] \times 10^5}{36} \right)^{\frac{1}{0.78}}$$

28 (ii) 表示平均分子量150万～390万の場合

29 本品の平均分子量を次式により求めるとき、150万～390
30 万である。ただし、 $[\eta]$ は、粘度の項の極限粘度を用いる。

$$31 \text{ 平均分子量} = \left(\frac{[\eta] \times 10^5}{22.8} \right)^{\frac{1}{0.816}}$$

32